

2011年2月18日  
中国自動車調査月報 編集長 周政毅

## 中国自動車1月生産は、 11.3%増と2桁成長を堅持、懸念材料も残る

- 2011年1月、中国自動車生産台数は前年同月比11.3%増の179.8万台と堅調。
- 2011年1月、中国自動車出荷台数は前年同月比13.8%増の189.4万台、過去最高。
- 燃料価格の高騰、インフレ深刻化等懸念材料も依然残る

謹啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当社の調査・出版業務にご協力頂き、誠にありがとうございます。

2011年1月の中国自動車生産実績を速報値でみると上記の結果並びに情勢となっています。詳細につきましては以下のレポートをご覧ください。なお、2011年1月の中国生産動向については、「中国自動車調査月報」で取り上げる予定はございませんのでご了承下さい。ご不明な点や質問がありましたら、「FOURIN 中国自動車調査月報」編集長の周政毅 (TEL: 052-789-1186、FAX: 052-789-0967、E-mail: s.shu@fourin.com) までにご連絡ください。

謹白

## 中国自動車 1 月生産は、 11.3%増と 2 桁成長を堅持、懸念材料も残る

2011 年 2 月 18 日に中国汽車工業協会(CAAM)の発表によると、2011 年 1 月自動車生産台数が前年同月比 11.3%増の 179.8 万台となり、2 桁の成長を維持した。

WTO に加盟した 2002 年からリーマンショックが起こった 2008 年までの中国自動車市場は、平均年間 100 万台の純増となったことに対して、購入税減税、汽車下郷(農村普及策)、買換補助金の 3 景気浮揚策を実施した 2009 年、2010 年にはともに 400 万台以上の純増となり、単純計算すれば、600 万台需要が先食われた。それにも関わらず、中小都市での顕著な販売増加や、市場の牽引役が浮揚策の対象車・1.6ℓ以下乗用車から、1.6ℓ超乗用車にシフトした等から、中国市場の堅調が続いた。

しかし、2011 年 1 月から北京市は、上海市に次ぎ、登録規制に踏み切ったことほか、渋滞の深刻化を問題視する天津市、重慶市、広州市、深圳市等大都市はマイカー保有規制を明確化している中で、燃料価格の高騰、環境税の導入、車船税改革等による維持費用の上昇等の懸念材料も払拭出来ず、商用車でも金融の引き締めによる鈍化の可能性が指摘され、市場の減速を懸念する声が高まっている。また、2010 年からインフレ懸念が深刻化しているとともに、不動産バブル崩壊の可能性が否定できない等の中国経済の不確実性が高まりつつある中、中国市場関連の動きがますます目が離れにくくなる。

【中国、月次自動車生産台数・伸び率推移(2006 年 1 月～2011 年 1 月)】

